

1. 国際コミュニティ学部の教育方針（2020年度生用）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

国際コミュニティ学部は、国際社会全体をひとつのコミュニティにとらえ、Think Globally, Act Locallyを念頭に、地域社会と国際社会における多様性とダイナミズムを理解できる思考力と知性を身につけ、良識と教養ある判断力を備えた市民を育成することを目的として、学生が卒業するまでに身につけるべき能力を、学士課程の学位授与の方針として、以下の通り定めます。

① 知識と技能

講義、ゼミナールなどでの読む・聴く・書く・話すことの反復をとおして、地域社会の現状と課題や国際社会のダイナミズムを理解できる基本的知識を収集・整理・理解し、分析・表現することができるようになること。

② 思考力・判断力・表現力

修得した知識と技能をもって、自ら課題を発見し、課題の解決に取り組み、社会の将来や事態の推移を洞察することのできる広い視野と思考力・判断力・表現力等の能力を持つようになること。

③ 多様な人々との協創

多様な立場や価値観を尊重し、主体性をもって、世界や地域に生きる多様な人々と相互協力のできる市民としての知性と良識を養うこと。

教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

国際コミュニティ学部は学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を実現するために、教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）を次の通り定めます。

① 基礎から発展へ

「学び」に必要な基礎的技法の修得を目的とする初年次授業科目を配置し、あわせて低学年の段階で世界や地域の現状を体験する機会を提供します。知識を修得する講義とそれを整理して自らの意見を発信できるゼミナール・演習・プロジェクト型授業をバランスよく履修できるよう工夫します。世界や地域において実地で貢献するための体験科目を配置します。《主専攻科目》を複数の科目群に区分し、それぞれに最低修得単位数を定め、4年間の学修に体系性を確保します。

② 視野の拡大

豊かな人間性を培い、思考力・判断力・表現力を養うために人文・社会・自然にわたる多様な学問分野にかかる授業科目をできる限り配置し、個々の興味・関心に応じて履修できるように工夫します。

③ 経験の拡充

課題解決型実習科目、キャリア教育科目、グローバル科目、留学制度を利用した社会での実践や異文化体験を推奨します。

国際コミュニティ学部国際政治学科の教育方針（2020年度生用）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

国際政治学科は、コミュニティ間のグローバルなつながりから社会をとらえる視点を重視し、広島と世界各国・各地域との架け橋となりグローバル社会に積極的に関与することのできる人材の育成を目的として、学生が卒業するまでに身につけるべき能力を、学士課程の学位授与の方針として、以下の通り定めます。

① 知識と技能

講義やゼミナール、異文化体験などでの読む・聴く・書く・話すことの反復をとおして、日本と世界のさまざまな問題や国際社会のダイナミズムを理解できる基本的知識を収集・整理・理解し、分析・表現することができるようになること。

② 思考力・判断力・表現力

修得した知識と技能をもって、自ら課題を発見し、課題の解決に取り組み、国際社会や地域社会の将来や事態の推移を洞察することのできる広い視野と世界とつながる思考力・判断力・実践的なコミュニケーション力等の能力を持つようになること。

③ 多様な人々との協創

多様な立場や価値観を尊重し、主体性をもって、さまざまな国の人々と相互協力のできる市民としての国際的知性と良識を身につけること。

教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

国際政治学科は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を実現するために、教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）を次の通り定めます。

① 基礎から発展へ

国際政治学科が扱う多岐にわたる領域を整理し、順序性のある学修を可能にするために、ナンバリング制により主専攻科目を配置します。国際共通語である英語による実践的コミュニケーション力を高めるために英語科目を1年次から集中的に配置するほか、海外経験を推奨します。

② 視野の拡大

国際社会のダイナミズムを理解するために、政治・法律・経済・文化などの多様な学問分野の科目を履修できる学際的なカリキュラムを工夫します。

③ 経験の拡充

国際社会や地域社会で活躍するための実践的な力を養うために異文化体験を推奨し、国際機関などでのインターンシップや海外留学を実現しやすくするため、4学期制を導入し、これらの成果を単位認定します。

国際コミュニティ学部地域行政学科の教育方針（2020年度生用）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

地域行政学科は、ローカルなコミュニティの有り様から社会をとらえる視点を重視し、政治・行政への知識を土台に地域社会のニーズを政策に反映させ地域と協働して課題解決を図り、地域社会の発展に貢献する人材の育成を目的として、学生が卒業するまでに身につけるべき能力を、学士課程の学位授与の方針として、以下の通り定めます。

① 知識と技能

講義やゼミナール、地域体験などでの読む・聴く・書く・話すことの反復をとおして、広島や日本のさまざまな問題や地域社会の課題を実践的に理解できる基本的知識を収集・整理・理解し、課題解決策を考えることができるようになること。

② 思考力・判断力・表現力

修得した知識と技能をもって、自ら課題を発見し、課題の解決に取り組み、地域社会の持続的発展の方策を企画・提案・実行することのできる思考力・判断力・実践的なコミュニケーション力等の能力を持つようになること。

③ 多様な人々との協創

多様な立場や価値観を尊重し、主体性をもって、地域社会のさまざまな立場の人々と相互協力し、活力を生みだす知性と良識を身につけること。

教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

地域行政学科は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を実現するために、教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）を次の通り定めます。

① 基礎から発展へ

政治学と行政学を中心に政策科学的観点を加味し、順序性のある学修を可能にするために、ナンバリング制により主専攻科目を配置します。法学・経済学分野を含め、概論科目を1年次に集中的に配置するほか、地域体験科目の履修を推奨します。地域課題の発見・解決に継続的に関わるため、実践科目を配置します。

② 視野の拡大

地域課題の多様性を理解するために、法律・経済・国際政治など隣接する学問分野の科目を履修できる学際的なカリキュラムを工夫します。

③ 経験の拡充

地域社会の活性化を担うことのできる実践的な力を養うために、イノベーション関連の科目も設置し、地域体験を実現しやすくするため、4学期制のもと、地域作業をするカリキュラムを構築します。